

事業名：「帰還困難区域の入域管理・被ばく管理等」

外部有識者委員のコメント

- 一者応札、一者応募にかかる従来の取組みは不十分と言わざるを得ない。今後改善策に最善の努力をもって臨み、予算の効率的執行に努めていただきたい。
- 一者応札が継続することは望ましくないので、他の可能性を探る努力、応札が難しい理由を明らかにする努力が必要と考える。理由が判明した時点で、それに適切な対応をとっていただきたい。
- 入札説明会参加企業に対する入札不参加理由に応じた今後の改善策を考える必要がある。
- これまでの入札の管理が不十分で前向きな取組みがなされてこなかった不作為の結果として、このように一者応札が続いてしまっていると考えられる。工夫できる余地は多々あり、「復興事業だから」という目的で甘えず、国民の納得できる抜本的な改善策を取るべき。例えば、入札の透明化（落札率の公表）、業務ごとの分割発注（警備とバリケード設置を分ける、警備のエリアを分ける等）
- バリケードの維持管理においては、業務別等の発注を行うべきである。
- 立入人のチェックの仕方をより効率化する努力が必要。その他の現場における様々な作業についてより効率化する努力が必要。バリケード機材の維持、管理は他と分離できないか。

外部有識者委員のとりまとめ結果

「事業全体の一部改善」

<とりまとめコメント>

- 一者応札に係る取組みが不十分。
- まずは、その理由を明確化した上で入札状況の透明化に努め、例えば、分割発注を行うなどの必要な対応をとるべき。

- ・「廃止」 0名
- ・「事業全体の抜本的改善」 2名
- ・「事業内容の一部改善」 4名
- ・「現状通り」 0名

事業名：「東日本大震災復興交付金」

外部有識者委員のコメント

- ご説明を聞く限りでは、復興庁と自治体が十分程度状況の理解、計画の策定に努め、現実的かつ柔軟性のある事業執行であると思われる。今後は各自治体の力量を踏まえ、進捗の遅れ等については、厳しめの評価を行うとともに、good case の推進、キャパビル等にも努めてはどうか。
- 震災後最初の 5 年間の集中復興期間が経過し、事業終了の H32 年度まであと 4 年半となった今の時点としては、進捗が遅れていると考えられる。今後は各市町村に交付された基金の執行がもっと円滑に進むよう「交付」ではなく「執行」に重点をおいて国（復興庁）のかかわりを強化すべき。たとえば、進捗率の低い市町村へのフォローに重点化する、未使用（不用）の基金の早期国庫返納を強化する、事業終了の市町村名を積極的に对外広報、してはどうか。
- 特に進捗が遅れている被災自治体への支援に注力しつつ、各自治体の意向調査の結果を踏まえ、適切な交付金の配分に尽力すること。
- 残高（累計）が 5716 億円と多額になっていることから、契約済額などを考慮して、交付金配分のタイミングを決めたらどうか。
- 金額が多額なので、一括配分における使途未決定額の少なくとも一部についての返却について自治体によって考える可能性はないのか。
- 効果促進事業で一括で先渡ししている一括配分交付金については、制度的な役割は既に果たしたと思われ、現在の 20%からの縮小又は廃止をすべきである。

外部有識者委員のとりまとめ結果 「事業全体の一部改善」

<とりまとめコメント>

平成 32 年度の事業終了を見据え、

- 復興交付金の未執行残額の実態を踏まえ、例えば進捗率の低い市町村への国の関わりを強化するなど、円滑な執行を促進することが必要。また、使途見込みの無い額については返還を促すなど、残額の縮小に向けた取組を進めることが必要。
- 今後は、一括配分の配分について、縮小又は廃止を含め、見直しを検討することが必要。

- ・「廃止」 0 名
- ・「事業全体の抜本的改善」 0 名
- ・「事業内容の一部改善」 6 名
- ・「現状通り」 0 名

事業名：

「国立研究開発法人日本原子力研究開発機構運営費交付金に必要な経費」

外部有識者委員のコメント

- 基礎的技術の開発及び蓄積のための地道な努力を引き続き継続していただきたい。
- 技術開発・研究成果の検証を継続し、対象事業の絞り込みに尽力すること。
- 技術開発・現状把握が重点的な目標と考える。情報提供については、福島県に任せてはどうかと思う。
- 長期的な取組みの必要性があることから研究開発等の進捗状況等を踏まえ、将来一般会計等において実施することも検討すべきである。また福島第一原発の事故の経験を活かし、あってはならないが、他の原発事故（他の国も含む）でも活用できるようなものとすることを期待する。
- JAEA と国立環境研究所、福島県との役割分担の在り方は今後さらに年数が経過するにつれて変化していくのではないかと。フェーズ2やフェーズ3においては、「要望があれば何でも取り組む」というのではなく、逆に現在から将来の各時点までに取り組んでいくべき目標を立て、メリハリをつけて取り組むべきなのではないか。
- 入札状況の改善への取組みをより積極的に行っていただきたい。

外部有識者委員のとりまとめ結果

「事業内容の一部改善」

<とりまとめコメント>

- 技術開発や研究成果の検証を徹底し、対象事業の絞り込みや重点的な目標の設定等メリハリをつけた取組むが必要。
- 長期的な取組むが必要なものについては、その進捗状況を踏まえ、将来一般会計等において実施することも検討すべき。また、今後の進捗に応じて、県、国立環境研究所との役割分担を検討していくことが必要。
- 入札状況の改善への取組むを積極的に行うことが必要。

- ・「廃止」：0名
- ・「事業全体の抜本的改善」0名
- ・「事業内容の一部改善」5名
- ・「現状通り」1名

事業名： 「漁場復旧対策支援事業」

外部有識者委員のコメント

- ダラダラと予算がついているため、事業の効率的な実施・完了に至っていないと考えられる。終期の前倒しについて、ご担当部局は前向きにお考えいただけないようなので、このまま H32 年度まで引っ張るのであれば、予算の効率的な執行にはつながらず、H28 年度限りで廃止として本年度中に可能な限り最大限の成果が得られるようにしてはどうか。
- 完全にながれきを回収できることは期待できないと考えるが、今後は当該年度の回収量がある下限を超えた場合終了とするなど到達地点を決めて事業を終了してはどうか。
- 今の執行率の水準で、現在の予算規模を維持していくのは困難ではないか。
- 予算の執行率が 4 割弱と低調に推移している事実を踏まえ、対象地域・取組事業を縮小するなど、改善策の検討が必要。
- 平成 25 年以降、がれき回収量と漁業生産量との間に相関関係がみられないため、アウトカムの指標として不適切である。福島の手が付けられていない地域については、今後別の予算にすることも検討すべきではないか。
- 目標となる生産量について、遠洋、近海、沿岸別や、県の中の地域別など可能な限りきめ細かな目標生産量を決め、それぞれの状況に応じた対応とすべき。

外部有識者委員のとりまとめ結果

「事業内容の抜本的改善」

<とりまとめコメント>

- 事業の効率的な実施を図るため、H28 年度限りでの廃止も含め、回収量の進捗状況を踏まえながら、終期の前倒しを検討すべき。また、福島の手が付けられていない地域については、別の事業にすることも検討すべき。
- 要求する場合にあっても、予算規模を縮小すべき。
- 生産量の目標については、がれき回収量と漁業生産量との間の相関関係が明確ではないため、現状では不適切。震災前の生産量との比較ではなく、遠洋、近海、沿岸別や地域別などきめ細かな生産量の把握に努め、それぞれの状況に応じた対応をとるべき。

- ・「廃止」 1 名
- ・「事業全体の抜本的改善」 2 名
- ・「事業内容の一部改善」 3 名
- ・「現状通り」 0 名

事業名： 「三陸復興国立公園等復興事業」

外部有識者委員のコメント

- 環境省の本来の業務である守るべき環境は何かを明確にした上で利用拠点等の施設の整備をすべき。守るべき環境(目標)が守られているかどうか実績として明らかにすべき。
- 環境省の事業でありながら事業が「観光立国」目的に引きずられ過ぎであると思う。あくまで国立公園の復興事業であり、津波等で大きな被害を受けた公園をできる限り震災前の自然環境に戻すことが最優先なのではないか。アウトカム指標に生態系の保全度合いを測る指標を入れるとともに、今後は整備済の国立公園についても、生態系の保全・再生により重点的に取り組んでいくべき。
- 進捗率が低いことの理由が明確ではない。より現実的な目標を立てるとともに環境保全の意識を強調した計画にしてはどうか。
- 一者入札が多くみられ、またその落札率が高い現状を踏まえ、より競争性を高めるための施策が必要と思われる。
- 一者応札が続かないように、復興庁などとも協力して様々な方策をとるべきである。
- 東北新生を内外に示すシンボリックな事業であることにかんがみ、執行率を上げ、整備事業の確実な完了に努めるべきである。

外部有識者委員のとりまとめ結果

「事業内容の一部改善」

<とりまとめコメント>

- アウトカムとして、観光だけではなく、環境保全にかかる指標を入れるべき。
- 一者応札、高い落札率の現状を踏まえ、入札に当たってはより競争性を高める施策が必要。
- 東北新生を内外に示すシンボリックな事業であることにかんがみ、執行率を上げ、整備事業の確実な完了に努めるべき。

- ・「廃止」 0名
- ・「事業全体の抜本的改善」 0名
- ・「事業内容の一部改善」 5名
- ・「現状通り」 1名